

《素鷲神社》

素鷲神社は、天王山古墳の上であり、住民から「てんのんさん」と親しまれています。南北朝時代に、長慶天皇が立ち寄られた跡として、この地を天王山と呼ぶようになったとも言われています。祭られているのは、太陽の神である天照大神（あまてらす おおみかみ）の弟である健速須佐之男命（たけはや すさのおのみこと）です。

この神社でも、三輪田米山の見事な書が見られます。鳥居の右が「黄龍」、左が「騰天」、注連石の右が「年豊（としゆたか）」、左が「人楽（ひとたのしむ）」です。



【鳥居】



【本殿】



【本殿内部】



【注連石】